慶 應 義 塾 大 学
保健管理センター年報

Annual Report of Keio University Health Center

2019

慶應義塾大学保健管理センター年報

Annual Report of Keio University Health Center

2019

目　　次

巻頭言……森　　正明

Ⅰ　本編

第 1. 大学保健管理業務 …… 3
第 2. 一貫教育校保健管理業務 …… 6
第 3. 感染症対策 …… 8
第 4. 環境衛生業務 ……11
第 5. 産業保健活動 ……13
第 6. 教育 ……14
第 7. 研究 ……15
（第 8. 会議，第 9. 関連資料は資料編のみ）
第10. 慶應義塾診療所 ……16

Ⅱ　資料編

第 1. 大学保健管理業務
1. 年間主要業務 ……17
(1) 本部（日吉）
(2) 三田分室
(3) 湘南藤沢分室（看護医療学部を含む）
(4) 信濃町分室
(5) 矢上分室
(6) 芝共立分室
2. 学生定期健康診断 ……27
(1) 学生定期健康診断実施項目一覧
(2) 学生定期健康診断受診状況
(3) 学生定期健康診断の流れ
(4) 学生定期健康診断　各検査の管理区分Ｃ判定集計
(5) 学生定期健康診断　生活区分，現病歴，身体障害者の状況
(6) 学生定期健康診断　二次検査等フォローアップ件数
(7) 学生定期健康診断　結果報告書配布数・Web 閲覧件数
(8) ライフスタイル調査結果
3. 教職員定期生活習慣病健康診断 ……34
(1) 教職員定期生活習慣病健康診断実施項目一覧

(2) 教職員定期生活習慣病健康診断受診状況
(3) 教職員健康診断の流れ
(4) 教職員定期生活習慣病健康診断集計
(5) 医師面接実施状況
(6) メンタルヘルスチェック
(7) 消化器系検査集計
(8) 女性教職員検診集計
(9) 参考資料
4. その他の健康診断 ……47
(1) 特定業務従事者の健康診断
(2) 特殊健康診断
(3) 遺伝子組換え実験業務従事者の健康診断
5. 各種行事等救護状況 ……48
6. 特定保健指導 ……49
7. 教職員カウンセリング利用者数 ……49
8. その他の活動 ……49

第 2. 一貫教育校保健管理業務
1. 年間主要業務 ……51
(1) 幼稚舎分室
(2) 横浜初等部分室
(3) 普通部分室
(4) 中等部分室
(5) 湘南藤沢中等部分室
(6) 湘南藤沢高等部分室
(7) 高等学校分室
(8) 志木高等学校分室
(9) 女子高等学校分室
2. 保健室利用状況 ……60
(1) 幼稚舎分室
(2) 横浜初等部分室
(3) 普通部分室
(4) 中等部分室
(5) 湘南藤沢中等部・高等部分室
(6) 医療機関に依頼した外傷内訳
(幼稚舎分室・横浜初等部分室・普通部分室・中等部分室・湘南藤沢中等部分室)
(7) 精神保健相談
(幼稚舎分室・横浜初等部分室・普通部分室・中等部分室・湘南藤沢中等部分室)
(8) 高等学校分室
(9) 志木高等学校分室
(10) 女子高等学校分室
(11) 精神保健相談
(高等学校分室・志木高等学校分室・女子高等学校分室・湘南藤沢高等部分室)
(12) 保健室利用一覧

3. 児童・生徒定期健康診断 ……73
(1) 小学校（幼稚舎分室・横浜初等部分室）・
中学校（普通部分室・中等部分室・湘南藤沢中等部分室）
(2) 高校（高等学校分室・志木高等学校分室・女子高等学校分室・湘南藤沢高等部分室）

第 3. 感染症対策
1. 結核接触者健康診断 ……79
2. 結核スクリーニング ……80
(1) 対象および地区別受検者数
(2) IGRA（インターフェロンγ遊離試験）検査結果
(3) IGRA 検査後措置件数
3. ウイルス性疾患抗体価検査（麻疹・流行性耳下腺炎・風疹・水痘）……81
(1) 大学
(2) 一貫教育校
(3) 教職員
4. 予防接種 ……84
(1) Ｂ型肝炎ワクチン
(2) インフルエンザワクチン
5. 血液曝露対応　年間対応数および事後措置 ……85
6. 学外施設実習前便培養検査 ……85
7. 新型コロナウイルス感染症関連対応および事後措置 ……86
(1) 教職員，病院教職員，大学生
(2) 一貫教育校教職員，生徒，児童

第 4. 環境衛生業務
1. 教室等の調査 ……89
2. 食堂の調査 ……91

第 5. 産業保健活動
1. 労働衛生管理体制 ……93
2. 衛生委員会 ……93
3. 職場巡視 ……93
4. 就業判定 ……94
5. 産業医面接 ……95
6. 労働安全衛生教育 ……95
7. 労働者の心の健康保持 ……95

第 6. 教育
1. 大学講義 ……97
2. 予防医療センター …… 102
3. 集団保健衛生教育 …… 103

第 7. 研究
1. 保健管理センター教職員研究業績 …… 107

2. 保健管理センター研究会 …… 112
3. 保健管理センター研修会 …… 112
4. 部門ブロック別研修 …… 112

第 8. 会議
1. 保健管理センター運営委員会 …… 113
2. 業務連絡会 …… 113
3. 幹事会 …… 114
4. 人事委員会 …… 114
5. 看護職総会 …… 114
6. 対外的活動 …… 114
7. ワーキンググループ …… 114

第 9. 関連資料
1. 慶應義塾組織図 …… 115
2. 慶應義塾大学保健管理センター規程 …… 116
3. 大学保健管理センター人事委員会内規 …… 119
4. 保健管理センター教職員一覧 …… 120
5. 保健管理センター人事 …… 121
6. 保健管理センター配置図 …… 123

第 10. 慶應義塾診療所
1. 診療所について …… 125
2. 慶應義塾診療所規程 …… 126
3. 診療所等受診者数 …… 128
4. 精神・神経科受診者数 …… 129
5. 外部医療機関依頼数 …… 129
6. 診断書，公文書発行など …… 129
7. 慶應義塾診療所管理委員会記録 …… 130

編集後記……今村江里子

巻　頭　言

慶應義塾大学保健管理センター
所長・教授　　森　　正　明

本年の１月以降，日本でも感染が拡大した新型コロナウイルス感染症により，社会全体がこれまでにない大きな変化を経験することになりました。大学も例外でなく，本学ではキャンパスが閉鎖され，多くの授業がオンライン化しました。保健管理の分野でも，新年度恒例の集団で行う学生健康診断を延期して，優先度を決めて少人数ずつ必要項目を実施するとともに，大半の学生にはとりあえずWEB上で問診を実施し，内容により電話やWEB面接などによって，学生の健康管理を行うという試みを開始しました。想定外の幸運によって感染症が終息するということでもない限り，従来の手法では対応が難しい状況が何年も続く可能性があり，その間，あるいはその先を見据えた業務の変革が求められていると思われます。容易ならざる事態ではありますが，関係者の皆様と協力し，この難局を乗り越えてまいりたいと存じます。

さて，2019年度の主な人事的な動きですが，医師では４月１日付で医学部の臨床遺伝学センターに異動した小児科の山田茉未子医師の後任として長島由佳医師が就任しました。また，私と横山裕一医師が10月１日付で所長と副所長を重任いたしました。

2019年度の保健管理センターの活動（健康診断，感染対策，環境衛生，産業保健，教育，研究など）についてはこれまでと同様に本誌をご参照いただくとして，ご紹介しきれていない研究分野について言及いたします。2019年度末の時点で，匿名化したデータを用いた観察研究45件をホームページで公表していますので，ご参照ください。また，医学部の眼科学教室や感染症学教室との共同研究，体育研究所との共同研究，保健・医療・教育機関・産業等における女性の健康支援のための研究，東京大学大学院情報理工系研究科附属ソーシャルITC研究センターとの共同研究などにも取り組んでおります。

今後もスタッフ一同，一致協力して新常態における保健管理センターの活動を模索してまいりたいと思います。関係者の皆様には，引き続きご指導，ご協力をお願い申し上げます。なお，今回の年報につきましても，ご意見などがありましたら遠慮なくお寄せください。

Ⅰ　本編

第 1.　大学保健管理業務
第 2.　一貫教育校保健管理業務
第 3.　感染症対策
第 4.　環境衛生業務
第 5.　産業保健活動
第 6.　教育
第 7.　研究
（第 8.　会議，第 9.　関連資料は資料編のみ）
第10.　慶應義塾診療所

第１．大学保健管理業務

1．学生定期健康診断

資料編 1－（1）「学生定期健康診断実施項目一覧」に，2019 年度の大学生対象の本健診で実施された検査項目を示した。学校保健安全法施行規則（保安則）第六条第 1 項の検査項目，第 4 項の除外可能項目を鑑み，法定項目を満たしている。詳細は 2014 年の本年報 p. 3-4 で述べた。

資料編 1－（2）「学生定期健康診断受診状況」に 2019 年度の本健診受診率を示した。表アに，学部生のデータを学部，学年，男女別に記した。学部生受診者数（同表ア）は 24,327 名（在籍者 28,706 名，受診率 84.4%，昨年の受診率 85.5%）であった。大学院修士課程生（同表イ），大学院博士課程生（同表ウ），専門職学位課程生（同表エ）の受診率は夫々，84.9%（昨年;86.0%），65.2%（67.7%），76.2（81.6%）であった。学生全体では受診者は 28,028 名(在籍者 33,536，受診率 83.6%，昨年;84.9%)，男女別では，男子 81.6%（昨年 83.3%），女子 87.0%（88.0%）であった。

本健診は例年，4～5 月に開催されるが，9 月入学生は，入学時（秋）にも健診を受け，本健診も受ける。尚，9 月に実施している健診結果は年報には反映されていない。

医療系学部（医，薬，看護医療学部）における本健診受診率は夫々，99.3（昨年；99.9），97.7（97.9），98.6（98.2）％と高率であったが，病院実習がある医療系学部は受診率を 100%にする必要がある。

近年，本健診受診率は減少傾向にある。受診率の詳細な考察は 2014 年の本年報 p. 4-5 で述べた。

資料編 1－（3）「学生定期健康診断の流れ」に本健診後事後措置の流れを記した。このスキームは学校保健安全法第 13 条および保安則第 9 条に従って作成された。

資料編 1－（4）「学生定期健康診断―各検査の管理区分 C 判定集計」に本健診での C 判定（要再検査，要精密検査，要治療）者数を示した（各基準は表中に記載した）。前年と比べ大きな変化はなかった。

資料編 1－（5）「学生定期健康診断―生活区分，現病歴，身体障害の状況」に生活区分，現病歴，身体障害の観点より何らかの配慮が必要と判断された者の人数を示した。呼吸器系疾患の配慮必要者が前年の 2.2%から 0.7%に低下していたが，その理由は不明である。他の項目では大きな変化はなかった。

資料編 1－（6）「学生定期健康診断―二次検査等フォローアップ件数」に本健診で何らかの管理が必要と判断され本センターでフォローアップを受けた者の人数を示した。前年と比べ大きな変化はなかった。

資料編 1－（7）に本健診結果返却の概要を述べた。本健診結果は本センター各地区の窓口で返却しているがその件数は 356 件で年々減少している（昨年 379 件）。一方で，2007 年度から開始した学生健診結果 Web 閲覧（2013 年度からはスマートフォンでもアクセス可能になった）は 34042 件と，結果返却率向上に大きく貢献している。しかし，この WEB アクセスも昨年の 35564 件から減っており，頭打ちになっている。尚，このシステムでは，一人が複数回アクセスした場合，その都度アクセス一回とカウントされるため，上記人数は結果確認者の人数を必ずしも反映しない。

奨学金の申請など種々手続きの際に必要な，本健診の受診証明書の発行はセンター窓口，学生課に設置された自動発行機で行っている。本システムの詳細な考察は，2014 年の本年報 p. 5-6 で述べた。

（横山裕一）

2. 教職員定期生活習慣病健康診断

(1) 受診状況

2019 年度の慶應義塾全体の受診率は 97.8%であり，この 3 年間は 98%前後の高い受診率で推移している。地区別受診率は志木地区が 100.0%，信濃町地区が 99.6%，芝共立地区が 99.2%，矢上地区が 97.9%，三田地区が 96.4%，湘南藤沢地区が 93.7%，日吉地区が 93.4%であった。一貫教育校所属教職員の受診率は 1 名未受診者がおり，99.8%であった。

(2) 生活習慣病健康診断集計

身長・体重，腹囲，視力，聴力，胸部 X 線検査，血圧，検尿，心電図の有所見者の割合は 2018 年度と大きな変化はなかった。その内，視力の C 判定(右または左の視力が 0.7 未満)が 11.1%，血圧の C 判定(収縮期血圧 140mmHg 以上または拡張期血圧 90mmHg 以上)が 11.1%と 2019 年度も 10%を超えていた。

血液検査の有所見者の割合は 2018 年度と大きな変化はなく，血液検査で異常値が認められる割合が高い検査は脂質関係と肝臓関係であった。TG 240mg/dL 以上，または HDL コレステロール 34mg/dL 以下または 120mg/dL 以上，または LDL コレステロール 160mg/dL 以上が脂質関係の C 判定となるが，男性で 20.3%，女性で 10.0%，合計で 14.9%であった。AST 60U/L 以上，または ALT 60U/L 以上，または ALP 400U/L 以上，または γ-GTP 120U/L 以上(男性)，80U/L 以上(女性)が肝臓関係の C 判定となるが，男性で 9.4%，女性で 3.1%，合計で 6.1%であった。

(3) 特定健康診査

40 歳以上 65 歳未満の受診者は 3,476 人(男性 1,860 人，女性 1,616 人)であった。40 歳以上 65 歳未満のメタボリックシンドロームと診断された人は，男性で 324 人(17.4%)，女性で 57 人(3.5%)，合計で 381 人(11.0%)であった。2018 年度(受診者数 3,246 人中，男性 340 人(19.0%)，女性 56 人(3.8%)，合計 396 人(19.2%))と比べ，やや減少した。積極的支援レベルが男性で 244 人(13.1%)，女性で 57 人(3.5%)，合計で 301 人(8.7%)であった。動機付け支援レベルが男性で 234 人(12.6%)，女性で 86 人(5.3%)，合計で 320 人(9.2%)であった。

(4) その他

健康診断後の管理状況は，面接指示者 487 人に対し，面接を実施した件数は 424 人であった。メンタルヘルスチェックは 6,121 人が受検した。年齢 40 歳以上の健保加入者(3,737 人)は消化器系検査の受検資格があり，上部消化管検査受検者は 1,534 人(41.0%)，腹部超音波検査は 1,791 人(47.9%)が受検した。予防医療センターで実施した上部消化管検査(1,410 人)の有所見者の割合は 68.6%，予防医療センターで実施した腹部超音波検査(1,669 人)の有所見者の割合は 89.0%であり，2018 年度(上部消化管検査 66.9%，腹部超音波検査 88.6%)と比べ大きな変化はなかった。年齢 35 歳以上の健保加入者(4,565 人)は大腸がんスクリーニング(便潜血検査)の受検資格があり，1,844 人(40.4%)が受検した。予防医学協会の便潜血検査受検者(1,804 人)の内，陽性者の割合は 3.5%であり，2019 年度(3.8%)と比べ大きな変化はなかった。

(西村知泰)

3．その他の活動等

(1) その他の健康診断

2019 年度は，常時深夜業に従事する者等を対象とする特定業務従事者の健康診断を信濃町地区で 2,119 件実施した。また，電離放射線取扱い者，特定化学物質取扱い者，有機溶剤取扱い者，鉛取扱い者，遺伝子組み換え実験業務従事者に対して，特殊健康診断を実施した。電離放射線取扱い者，遺伝子組み換え実験業務従事者の特殊健康診断の件数は，教職員を中心に信濃町地区で多く，特定化学物質取扱い者，有機溶剤取扱い者の特殊健康診断の件数は，学生を中心に矢上地区で多かった。

(2) 各種行事等の救護状況

保健管理センターでは，各種行事(入学式，卒業式，入学試験等)の救護活動を行っている。2019 年度は新型コロナウイルス感染症の感染状況をふまえ，3 月の大学学部卒業式，大学院学位授与式が中止となった。救護件数としては，大学学部入学試験が一番多く，44 件(日吉本部 32 件，三田分室 12 件)であった。

(3) 特定保健指導

2019 年度の特定保健指導の初回指導は，積極的な取り組みにより，199 件実施された。2018 年度（50 件）に比べ，著明に増加した。

(4) 教職員カウンセリング

教職員を対象としたカウンセリングは，2018 年 9 月より一時中止されていたが，2019 年 7 月から再開され，2019 年度は合計 32 件実施された。

(5) その他の活動

応急処置・保健相談等は，投薬(市販薬)が 85 件，処置(外傷の消毒，湿布等の処置，爪きり使用，検温等)が 901 件，ベッド休養が 772 件で，2018 年度(投薬 182 件，処置 907 件，ベッド休養 871 件)と比べ，投薬とベッド休養が減少した。保健相談等(受付窓口や電話での相談，投薬・処置・ベッド休養が生じない健康相談，保健指導，病院案内等)は 474 件で，2018 年度(650 件)に比べ著明に減少した。

（西村知泰）

第２．一貫教育校保健管理業務

1．小・中学校

（1）2019 年度定期健康診断のまとめ（小・中学校）

ア．保健統計調査

（ア）身長

横浜初等部 4・6 年生女子を除いて，一貫教育小中学校の他のすべての学年において男女ともに全国平均値に比べて高かった。

（イ）体重

男子は幼稚舎 3 年生を除いて,小学校の他のすべての学年において全国平均値に比べて少なかった。女子は横浜初等部 2 年生を除いて，小中学校の他のすべての学年において全国平均値に比べて少なかった。

一貫教育校の児童・生徒は，全国平均値と比較して男女ともに身長が高く，特に女子では体重が少ない例年通りの傾向が認められた。

（ウ）栄養

肥満傾向(肥満度＋20%以上)の頻度は,幼稚舎(男 1.6%,女 0.0%),横浜初等部(男 1.3%,女 0.8%),普通部(男 6.4%)，中等部(男 5.8%，女 1.8%)，湘南藤沢中等部(男 5.3%，女 1.5%)のいずれも，全国平均値(小学生：男 8.6%，女 7.0%，中学生：男 9.9%，女 7.9%)に比べて少ないが，昨年度に比べて中学生男子は増加，小学生男子女子および中学生女子は減少を認めた。

栄養不良(やせ傾向)(肥満度－20%以下)の頻度は,幼稚舎(男 2.5%,女 1.8%),横浜初等部(男 2.8%,女 2.8%)，普通部(男 4.0%)，中等部(男 2.8%，女 3.9%)，湘南藤沢中等部(男 1.8%，女 1.5%)において，男女ともに湘南藤沢中等部を除いて，全国平均値(小学生：男 1.5%，女 1.5%，中学生：男 2.6%，女 3.5%)に比べて多かった。

（エ）視力

裸眼視力 1.0 未満の頻度は，幼稚舎(男 29.4%，女 29.2%)，横浜初等部(男 33.8%，女 47.6%)，普通部(男 67.3%)，中等部(男 72.5%，女 68.1%)，湘南藤沢中等部(男 67.0%，女 76.7%)において，幼稚舎を除いて,一貫教育小中学校では全国平均値(小学生:男 31.3%,女 38.0%,中学生:男 52.9%,女 62.2%)より多かった。

（オ）歯科

未処置う歯の保有率は，幼稚舎(男 8.5%，女 7.0%)，横浜初等部(男 9.5%，女 6.4%)，普通部(男 4.7%)，中等部(男 6.9%，女 6.3%)，湘南藤沢中等部(男 8.5%，女 10.9%)のいずれも，全国平均値(小学生：男 22.5%，女 20.9%，中学生：男 14.2%，女 14.2%)に比べて少ないが，幼稚舎，中等部，湘南藤沢中等部では昨年度に比べて増加を認めた。歯列矯正者は中等部女子(27.0%)に多かった。

イ．結核検診

計 44 人を対象に精密検査(胸部Ｘ線撮影)を実施した。受検理由は,海外結核高蔓延国での居住歴(21 人)，BCG 未接種(17 人)が多かった。最終結果は全員異常なしであった。

ウ．血液検査結果

ウイルス抗体価検査では,流行性耳下腺炎抗体陰性者(小学１年 48.9～51.9%,中学１年 55.2～65.4%)および水痘ウイルス抗体陰性者(小学 1 年 62.4～65.4%，中学 1 年 19.8～29.0%)が多く，抗体陰性者に対してワクチン接種の推奨をおこなった。

（徳村光昭）

2．高校

（1）2019 年度定期健康診断のまとめ

ア．保健統計調査

身長は，高校の男子，女子ともに，全ての学年において，全国平均値と比較し高かった。体重は，高校の男子は全国平均値とほぼ同等であったが，高校の女子では全ての学年において全国平均値以下であった。

イ．生徒定期健康診断受診・管理状況

高校の受診率はほぼ 100％であった。検尿，血液検査，胸部 X 線検査の再検査対象者の割合は，昨年度と比較し大きな変化はなかった。高等学校における血圧で再検査となった者が 96 人(4.2%)で，昨年度(39 人(1.7%))と比べ多かった。

ウ．血液検査結果

女子高等学校(195 人)の LDL コレステロール高値の生徒が 13 人(6.7%)，湘南藤沢高等部女子(120 人)の LDL コレステロール高値の生徒が 12 人(10.0%)と昨年度(女子高等学校(207 人)：8 人(3.9%)，湘南藤沢高等部女子(123 人)：6 人(4.9%))に比べ多かった。各校におけるその他の異常値の割合は，昨年度と比較し大きな変化はなかった。

（2）2019 年度保健室利用状況

保健室利用状況は昨年度と同様に，生徒数の多い高等学校が年間来室者数 1,667 人，一日あたりの平均来室者数 11.6 人で 4 校中一番多かったが，一人あたりの平均年間来室回数は 0.7 回で一番少なかった。また，インフルエンザによる学級閉鎖は，高等学校の 2 件のみであった。

精神保健相談に関しては，高等学校の事例数が 55 件，志木高等学校の事例数が 39 件で昨年度(高等学校：63 件，志木高等学校：48 件)に比べ減少し，女子高等学校の事例数が 42 件，湘南藤沢高等部の事例数が 49 件と昨年度(女子高等学校：39 件，湘南藤沢高等部：34 件)に比べ増加した。相談内容で一番多いものは学校生活・友人関係であった。

（西村知泰）

第３．感染症対策

近年，保健管理センター（本センター）が行う感染症対策は多岐にわたる。その概要は 2014 年の本年報 p.13-16 に示したが，まだ年報記録にならない業務も含まれる。本項は，基本的に，記録編に掲載されている記録の説明に留めたが，本年度は，新型コロナウイルス（2019-nCoV）の流行があり，本センターはその対策も行ったので，その説明を加筆した。

1．結核接触者健診（資料編 表 1）

本センターは，結核対策として，教職員へは年 1 回の教職員健診での胸部 X 線（CXP）撮影，学生へは年 1 回の学生健診での指定学年の CXP 撮影，および問診を行う。しかし，不慮の結核患者への濃厚接触があった場合，追加で本健診を行い，その感染の有無を調べる。本健診は 2007 年度より感染症法 17 条がその根拠となった。主に医療従事者が対象で，本年度に新しく発生した事例 3 件もすべて大学病院（信濃町地区）事例であった。本年度は過去からの継続事例を併せ計 9 件，250 名を管理した。うち 2 事例は他医療機関での接触例であった。

本健診ではまず，結核菌に対する Interferon-Gamma release assay（IGRA）検査を行う。本年度は 16 例に行った。陽性者は①結核症重点観察（6 月おき 2 年間の CXP 撮影），②潜在性結核感染症治療，または③精査または結核症治療のための医療機関紹介となる。本年度は①と③の対象者が夫々11 名，1 名であったが，②の対象者はいなかった。

2．結核スクリーニング

本センターでは結核感染発見の目的で IGRA 検査を行う。本健診は 2 つの意義を有する。第 1 に，慶應義塾大学病院など，医療機関に立ち入るための結核非感染の証明である。大学医療系学部学生および大学院生と健康マネジメント研究科の指定学年，病院の新規採用者，他地区から病院への異動者が対象になる（資料編 表 2－(1)）。第 2 に，結核菌感染の早期発見である。病院の結核菌感染ハイリスク部署勤務者が対象になる（資料編 表 2－(2)）。

2019 年度の対象者は 1,100 名で，陽性者 13 名（1.2%），判定保留者 4 名（0.4%），判定不可の者 1 名（0.1%）であった。事後措置として，17 名に再検査を行い，8 名が重点観察対象者，3 名が潜在性結核感染症治療対象者となり，1 名が医療機関紹介となった。事後措置には，IGRA 再検査で結果が変わるケースや事後措置内容が変わる（例；重点観察から治療への変更）ケースもあり，対象者数は延べ人数で記載されている（資料編 表 2－(3)）。

3．ウイルス性疾患（麻疹・流行性耳下腺炎・風疹・水痘）抗体検査（資料編 表 3－(1)(2)(3)）

本センターは麻疹・流行性耳下腺炎・風疹・水痘の抗体検査を大学医療系学部学生の指定学年，一貫教育校生徒の指定学年，他地区から信濃町地区に異動になる教職員に行う。対象者の詳細は各項の冒頭に示す。検査は EIA 法（一部 HI 法）で行う。各群の各ウイルス抗体陽性率は 34.6%～100.0%で例年通り流行性耳下腺炎の抗体陽性率が低い傾向にあったが，本年度は幼稚舎，横浜初等部の水痘陽性率が低かった。抗体陰性者には外部医療機関でのワクチン接種を勧奨する。医療系学部生，大学病院勤務者に対しては日本環境感染学会の指針

（http://www.kankyokansen.org/modules/publication/index.php?　content_id=17）を参考に，ワクチン接種が必要な基準値を高く設定している。一方，同指針では，これらのワクチンを 2 回接種した者に対しては，それ以上の接種は不要ともしている。よって，ワクチン推奨者が必ずしもワクチン接種を行うとは限らない。尚，その指針に従い，来年度から医学部 4 年生の抗体価測定を中止すること

にした。

4．予防接種

（B 型肝炎ワクチン）

本センターは B 型肝炎ウイルス（HBV）感染予防の目的で医療機関に立ち入る大学医療系学部学生および大学院生，健康マネジメント研究科の指定学年，病院の臨床業務に携わる教職員，その他必要と認められた教職員に対してワクチン接種を行う。事前に HBs 抗原抗体を測定し，どちらも陰性の場合，基礎接種の対象になり，約 6 月かけて 3 回のワクチンを接種し，最終接種の約 1 月後の HBs 抗体価が 10mIU/ml を超えれば陽転とする。非陽転者へは，追加接種を行う。過去に 3 回以上ワクチンを接種したものの時間経過で抗体が陰性化していると考えられる場合は，その者の免疫の記憶の保持を考慮し，まず 1 回の追加接種を行い，陽転すればワクチン接種終了としている。この方式の導入でワクチン接種回数が削減された。尚，米国 CDC の見解に基づき，合計 6 回以上のワクチン接種は勧めていない。2019 年度は本塾全体で 452 名の申込みがあり，1,153 本のワクチン接種を行った。報告された副作用は 27 件（2.3%）で，例年並みであった。

（インフルエンザワクチン）

大学病院では表 4－(2)に示した対象者に有料でインフルエンザワクチン接種を行っている。本事業は，大学病院感染制御部が中心となり，2002 年の開始当初から本センターも準備，実施に携わっている。2019 年度の接種者は 3,621 名で例年並みであった。2017 年度より予防医療研修の一環として大学病院研修医も本ワクチン接種業務に参加しており，その指導は本センター医師を含めた大学病院医師が行っている。

（麻疹・流行性耳下腺炎・風疹・水痘ワクチン）

本センター信濃町分室では 2018 年度より教職員を対象にした麻疹・流行性耳下腺炎・風疹・水痘の有料のワクチン接種外来を開始した。現在，月 1 回（開催しない月もある），予約制で行っている。現在のところ，1 枠 10 名程度の予約としている。

5．血液曝露対応

本センターは主に，大学病院に勤務する教職員，実習生の血液曝露事故の際に，B 型肝炎(HBV)，C 型肝炎(HCV),ヒト免疫不全ウイルス(HIV)の感染予防措置を行っている。尚，本年度の途中から梅毒対策は中止した。曝露源が特定できて，曝露源者の許可が得られた場合，その者および曝露者の 3 種感染症の状態を検査し，曝露状況のアセスメントを加え，どの対策を行うか，どの感染症のフォローアップを行うかを決定する。曝露源が特定できない場合や曝露源者から検査許可が得られない場合は，曝露者の免疫状態と曝露状況から方針を決定する。HBV 対策はヘブスブリン 1000 単位静注とワクチン接種開始，HIV 対策はツルバダ 1 錠+アイセントレス 2 錠/日の 28 日間服用，である。HCV に対しての特定の対策はない。フォローアップは，HBV 抗原抗体，HCV 抗体，HIV 抗体，肝機能検査の中から必要なものを選び，1 ヶ月の間隔で 6 ヶ月まで，および 12 ヶ月後に採血を行う。

2019 年度は 107 件の報告があり，HBV 対策（ヘブスブリン投与のみ）を行った者 2 名，HIV 対策を行った者 1 名であった。対象外になる前に梅毒対策を行った者が 1 名あった。

6．学外施設実習前便培養検査

医学部，看護学部の学生が学外実習を行うにあたり，施設によっては赤痢菌，腸管出血性大腸菌(O-157)，コレラ菌，サルモネラ菌などの保菌者でないことの確認を要求するので，本センターではその検査も行う。本年度は対象者が 222 名で陽性者は 1 名だった。

7．新型コロナウイルス（2019-nCoV）感染症対策

（大学教職員，学生，病院）

2019 年度末から 2019-nCoV の流行が起こり，本センターは各キャンパスでのアウトブレークを防ぐための対策も行った。大学および一貫教育校の教職員，大学生には 37.5 度以上の発熱があった場合登校（就業）禁止とし，本センターへ連絡，解熱後解熱剤を服用せず 48 時間経過すれば，本センターで面接を受けた後に再登校（就業）を認めることとした。海外からの帰国者，2019-nCoV 感染症患者との接触者を 14 日間の自宅待機とした。本感染症に対するハイリスクの患者を抱える大学病院がある信濃町地区では，条件を厳しくして，熱が 37.5 度以上なくとも呼吸器症状があれば本センターへ連絡してもらい，保健管理センター医師の判断で登校（就業）禁止措置を課した。

信濃町以外の地区では，本センターへの連絡先を本センターの WEB 上に設け，発病者はそのサイトに登録することにした（一部電話対応を含む）。3 月 31 日まで登録者（発熱者）は全体で 43 名でうち 4 名に PCR での 2019-nCoV 感染が証明された。しかし，大学は既に春期休暇期間で，特に学生では，登録しなかった者も多くいたと推察する。

信濃町分室は WEB システムを用いず，電話での受付とした。また，信濃町分室では登録者に対して電話による毎日の病状確認を行った。3 月 31 日まで，登録者は 166 名で，発熱者は 140 名，うち 4 名に PCR での 2019-nCoV 感染が証明された。

登校（就業）許可面接は 3 月 31 日までに，信濃町以外の地区以外では 30 名，信濃町地区では 159 名に行われた。信濃町の面接者には，自宅待機終了者や症状が強かった非発熱例も多く含まれており，その数は発熱者数より多くなっている。信濃町地区では，病院より保健管理センター医師の就業判定を慎重に行うことが求められ，対象者全員に対して対面の面接が行われた。信濃町地区以外の地区では WEB を利用した面接も行われた。

（一貫教育校教職員，生徒，学生）

一貫教育校学生，生徒に対しては，2020 年 1 月 18 日の文部科学省の通達以後，2019-nCoV 感染症対応体制が構築された。しかし，一部学校は既に春期休暇期間であり，実際に体制が動きだしたのは 2 月下旬で，3 月上旬には全校で春期休暇が前倒しで始まった。一貫教育校は WEB 管理を行っておらず全例電話対応とした，などの理由から，報告者数，面接実施数も少なかった。尚，幼稚舎，横浜初等部の面接者数は突出して多いが，これは対象を発熱のみならず，体調不良全般で欠席した者に広げていたためである（症状の改善で，登校許可としていた）。両校からの報告によると典型的な 2019-nCoV 感染症（COVID-19）症例はなかったとのことである。しかし，小児科領域での COVID-19 は軽症～重症までスペクトラムが広く，また COVID-19 が多彩な症状を示すことから，非典型的な COVID-19 症例が含まれていたことは否定できない。

尚，2019-nCoV 対策は，年度を跨いで，各地区で続いている。

（横山裕一）

第４．環境衛生業務

学校における環境衛生管理については，学校保健安全法（2009 年 4 月 1 日施行）の規定に基づき，「学校環境衛生基準」が定められている。施行後 5 年を経過し，環境衛生に関する新たな知見や児童生徒等の学校環境の変化を踏まえて検討が行われ，一部改正された（2018 年 4 月 1 日施行）。これらの基準に基づいて，キャンパス衛生管理者，保健管理センター医師および保健師が，校内巡視および環境測定を行った。

1．実施項目

(1) 換気及び保温等および空気清浄度

ア. 換気
イ. 湿度
ウ. 相対湿度
エ. 浮遊粉じん
オ. 気流
カ. 一酸化炭素
キ. 二酸化炭素
ク. 揮発性有機化合物※1
ホルムアルデヒド，トルエン，キシレン，
パラジクロロベンゼン，エチルベンゼン，
スチレン
ケ. ダニまたはダニアレルゲン※2

(2) 採光

ア. 照度
イ. まぶしさ

(3) 騒音

ア. 騒音レベル

(4) 校内巡視

※1　2006 年度より管財部から業務移行された。

※2　2010 年度より実施

2．実施日程（大学・一貫教育校の各「年間主要業務」の頁を参照）

前期 6～8 月，後期 11～1 月に実施（年 2 回）

3．結果・事後措置概要

(1) 温熱環境

季節により，湿度が基準値を外れる教室が散見された。教室使用時には空調設備や換気扇，加湿器を適切に使用し，教室内の環境を保つよう指導した。

(2) 換気・空気清浄度

二酸化炭素濃度が基準値を上回る教室があり，換気扇を適切に使用するよう指導した。換気扇設備のない教室や，教室の広さに対して在室人数が多い場合は，窓を開けて換気するよう指導を行った。

(3) 照度・まぶしさ

おおむね問題はなかった。

(4) 騒音

おおむね問題はなかった。

(5) ダニまたはダニアレルゲン

ダニ数が基準値を超えた教室があり，清掃の徹底を指導した。

(6) 揮発性有機化合物

おおむね問題はなかった。

(7) その他

荷物や器材の積み上げ，ゴミや私物の散乱が認められる教室があるため，教室環境の美化および整理整頓に努め，緊急時避難経路確保を行うよう指導した。

食堂の調査

学校保健安全法に基づいて，食堂環境衛生検査ならびに食堂微生物検査を行い，関係所属長へ報告と改善依頼を行うとともに，食堂管理責任者へ指導を行った。

1．厨房巡視・聞き取り調査

キャンパス衛生管理者，保健管理センター医師および保健師が，担当地区の食堂を巡視し，食堂施設の状況，設備およびその取扱い状況，食品の取り扱いを含む調理場内の衛生状況，従事者の衛生管理状況，検食の状況等を調査した。

調理場の配管，換気扇等にほこりやカビなどの汚れ，水漏れが認められた地区があり，定期的な清掃と速やかな修繕を指導した。また，避難経路確保のために整理整頓を指導した。

2．微生物検査

冷蔵庫，まな板，作業者手指，台ふきん，直接喫食食品，飲料水，空中浮遊菌等

（一般細菌，大腸菌，黄色ブドウ球菌，サルモネラ，腸炎ビブリオの培養検査）の検査を行った。

(1) ふき取り検査で多くの食堂施設から一般細菌が検出され，施設によっては大腸菌も検出された。汚染された手指から食材への二次汚染の可能性がある為，手洗い方法を見直して，手指の清潔保持の徹底に努めるよう指導した。

(2) 台ふきんでは多くの食堂施設で大腸菌群および一般細菌が検出された。台ふきんの頻回の交換と消毒，またふきんの使途の明確な区別を徹底する必要について指導した。

(3) 複数の施設で加熱した食品から一般細菌が検出された。加熱によりほとんどの一般細菌は死滅するはずであり，調理後に一般細菌が付着したものと思われる。手洗いが不十分な手，または細菌が繁殖した台ふきんに触れた手で菜箸などの器具やポリ手袋等を用いて皿への盛り付けを行ったなどの可能性が考えられる。清潔保持の徹底を指導した。

(4) 複数の施設で空中浮遊菌の数が基準値を超えており，空調設備や換気扇の清掃・点検を適宜行い，空気環境の管理を行うよう指導した。

（武田彩乃）

第５．産業保健活動

労働安全衛生法及び労働安全衛生規則に基づき，次の活動を行っている。

1．労働衛生管理体制（労働安全衛生法第 12 条及び第 13 条）

慶應義塾では，事業場として大きく 7 地区(日吉，三田，芝共立，湘南藤沢，矢上，信濃町，志木)に分け，各地区に統括安全衛生管理者，産業医，衛生管理者を置き，教職員の健康管理等を実施している。

2．衛生委員会（労働安全衛生法第 18 条）

7 地区に衛生委員会が設置され，教職員の健康障害防止の基本対策などを調査・審議している。保健管理センターは各地区の登録産業医と衛生管理責任者等が産業保健の専門家として参加している。

3．職場巡視（労働安全衛生規則第 15 条）

衛生委員会の活動の一環として 7 地区において，職場巡視を実施し，職場における安全確保状況，換気状況等を調査し，教職員の健康障害を防止するための必要な措置を講じるようにしている。保健管理センターのメンバーは施設管理を担当する管財部門のメンバーとともに職場巡視のメンバーとして参加している。

4．就業判定（労働安全衛生法第 66 条第 1，2，3 項）

雇入れ時の健康診断，定期健康診断を実施している。雇入れ時の健康診断受診者数，定期健康診断受診者数はともに信濃町地区が最も多い。また信濃町地区では，常時深夜業に従事する者等を対象とする特定業務従事者の健康診断も実施している。電離放射線取扱い者，特定化学物質取扱い者，有機溶剤取扱い者，鉛取扱い者に対して特殊健康診断を，遺伝子組換え実験業務従事者に対しても健康診断を実施している。特殊健康診断判定件数，遺伝子組換え実験業務従事者健康診断判定件数共に，信濃町地区が一番多く，次に矢上地区が多い。

5．産業医面接（労働安全衛生規則第 14 条）

職場の上長や本人からの申し出があった場合と，長時間労働を行った教職員に対して，産業医による面接を行っている。具体的には，内科疾患または精神科疾患による休職後復職者，過重労働者，メンタル不調者等を対象に実施し，必要に応じて，総括安全衛生管理者に対して勧告し，又は衛生管理者に対して指導し，若しくは助言を行っている。

6．労働安全衛生教育（労働安全衛生規則第 59 条）

教職員に対し，その従事する業務に関する安全又は衛生のための教育を実施している。具体的には，電離放射線使用の注意点，有機溶剤使用の注意点についてのリーフレット配布等を行っている。

7．労働者の心の健康保持（労働安全衛生法第 66 条）

職業性ストレス簡易調査票（57 項目）によるストレスチェックを実施し，教職員の心の健康保持を図っている。

（西村知泰）

第６．教育

1．大学講義

保健管理センター設置講座では，非医療系学部の学生を対象として生活習慣病，感染症，薬物・飲酒の問題，メンタルの問題等，現代社会における疾病について，保健管理センターの各専門医が通年でオムニバス形式の講義を行っている。現代社会と深く関わりのある代表的な疾病について幅広い知識を得ることを目的とする。将来，Health care 関連企業に就職する学生の入門講義になるばかりでなく，健康的な生活を理解し，実践するための保健教育を目的としている。

また，体育研究所設置講座，医学部講座，看護医療学部講座，通信教育課程，学生総合センター設置科目においても講義を行い，通信教育課程については通年でレポート添削を行っている。

2．予防医療センター

2012 年 8 月 1 日より慶應義塾大学病院予防医療センターが開設され，保健管理センター専任医師は人間ドック受診者の当日結果説明および簡単な生活指導を交代で担当している。

3．集団保健衛生教育

(1) 衛生講習会

一貫教育校及び大学における文化祭，イベント等で，食品を扱う模擬店を出店する際には，保健管理センターが細菌性食中毒予防のため，①食中毒について②食材の取り扱い方③手洗いの方法④速乾性擦式手指消毒薬およびアルコール含有ウェットティッシュの使用方法等について指導を行っている。また，酒類を提供する予定のある大学生に対しては飲酒についての注意喚起も行っている。

(2) BLS（一次救命処置；Basic Life Support）講習会，AED(自動対外式除細動器；Automated External Defibrillator)講習会

慶應義塾に所属している学生，教職員および委託職員に対して救急蘇生法と AED の使用法についての説明，指導を行っている。集団指導を含めて 2019 年度の受講者数は約 1,300 人である。

(3) 小児・若年者の生活習慣

小児・若年者の肥満，高血圧などの生活習慣病は高率に成人の生活習慣病に移行することが知られている。そのため小児・若年者の生活習慣の修正は重要であり，一貫教育校では生活習慣是正のためのセミナーを行っている。また，生徒・保護者・教員を対象に脳震盪・精巣捻転症・熱中症・インフルエンザ等の感染症・心の問題・スポーツ障害等に関しての講演会を行っている。

（武田彩乃）

第７．研究

保健管理センターは，慶應義塾の研究所附属機関に位置づけられ，大学・大学院生，小中高一貫教育校児童・生徒，教職員の健康管理および感染症等の管理業務に加えて，健康の保持増進のための教育や研究活動を担当している。

1．保健管理センター教職員研究業績

(1) 受賞

ア　第８回臨床高血圧フォーラム（2019 年５月 11 日，久留米）において，「青年期の血圧に対する出生時体重が及ぼす影響」（筆頭演者：武田彩乃）が，女性研究者奨励賞を受賞した。

イ　第 19 回抗加齢医学会総会（2019 年６月 16 日，横浜）において，「Developmental Origins of Health and Diseases（DOHaD）と青年期男女における生活習慣病発症の検討」（筆頭演者：武田彩乃）が，最優秀演題賞を受賞した。

(2) 著書・翻訳書・論文・学会発表

2019 年度に保健管理センター教職員が執筆した著書は 11 編，筆頭著者で発表した論文は英文誌３編，和文誌 23 編であった。保健管理センターの機関誌である「慶應保健研究　第 37 巻第１号」（2019 年８月 31 日発行）には，学校保健や健康管理等に関する原著論文９編，総説３編，解説６編が掲載された。2019 年度に保健管理センター教職員が筆頭演者となった学会発表は，国内学会 25 題であった。主な学会として，第 57 回全国大学保健管理研究集会（2019 年 10 月，東京）では健康管理や健康診断に関する一般演題３題，第 66 回日本学校保健学会学術大会（2019 年 11 月，東京）では一般演題３題が発表された。

2．保健管理センター研究会

2019 年度は５回開催し，「慶應義塾中等部で実施した近視検診成績と今後の課題」に関する講演（講師：慶應義塾大学医学部眼科学教室　坪田一男）（2019 年 10 月 21 日），保健管理センター教職員による研究発表，第 57 回全国大学保健管理研究集会予演会，第 66 回日本学校保健学会学術大会予演会などを行った。

3．保健管理センター研修会

「保健管理センターとリスクマネジメント：過去のインシデントレポートから」と題した研修会を開催した（講師：慶應義塾大学保健管理センター　武田彩乃）（2019 年 12 月 23 日）。

4．部門ブロック別研修

外部講師として澁谷直貴氏（RIZAP 株式会社　スタジオ事業本部　教育開発部　法人プログラムユニット）を招聘して，「実践型健康セミナー」を開催した（2019 年８月２日）。

（徳村光昭）

（第８．会議，第９．関連資料は資料編のみ）

第10．慶應義塾診療所

日吉・三田・湘南藤沢・矢上診療所受診者数は合計で，学生 1,359 件，教職員他 2,014 件であり，いずれも昨年と比較し大きな変化はなかった。

このうち，精神科は矢上診療所を除く 3 診療所で診療を行っている。その内訳は，学生 669 件，教職員他 141 件であった。学生・教職員他ともに前年比で 1 割超の増加となった。

（今村江里子）

Ⅱ　資料編　　第７．研究

1. 保健管理センター教職員研究業績
2. 保健管理センター研究会
3. 保健管理センター研修会
4. 部門ブロック別研修

1. 保健管理センター教職員研究業績

(1)　受賞

武田彩乃

1)第8回臨床高血圧フォーラム女性研究者奨励賞
受賞理由：青年期の血圧に対する出生時体重が及ぼす影響
受賞日：2019年5月11日

2)第19回抗加齢医学会総会最優秀演題賞
受賞理由：Developmental Origins of Health and Diseases (DOHaD)と青年期男女における生活習慣病発症の検討
受賞日：2019年6月16日

(2)　著書・翻訳書・論文・学会発表

ア　著書

1)Azegami T, et al：Immunotherapy for Obesity. Therapeutic Vaccines as Novel Immunotherapy. Spinger, 357-370, 2019
2)Azegami T, et al：Plant-Based Mucosal Vaccine Delivery Systems. Mucosal Vaccines, Innovation for Preventing Infectious Diseases, Second Edition. Elsevier, 33-44, 2020
3)Ishizaki R, Uchida K, et al：A lacZ Reporter Transgenic Mouse Line Revealing the Development of Pulmonary Artery. Molecular Mechanism of Congenital Heart Disease and Pulmonary Hypertension. Springer Singapore, 83-86, 2020
4)Maeda J, Uchida K, et al：Roles of Stem Cell Antigen-1 in the Pulmonary Endothelium. Molecular Mechanism of Congenital Heart Disease and Pulmonary Hypertension. Springer Singapore, 87-90, 2020
5)Shibata A, Uchida K, et al：Ca^{2+} Signal Through Inositol Trisphosphate Receptors for Cardiovascular Development and Pathophysiology of Pulmonary Arterial Hypertension. Molecular Mechanism of Congenital Heart Disease and Pulmonary Hypertension. Springer Singapore, 97-100, 2020
6)Uchida K, et al：Roles of Tbx4 in the Lung Mesenchyme for Airway and Vascular Development. Molecular Mechanism of Congenital Heart Disease and Pulmonary Hypertension. Springer Singapore, 79-82, 2020
7)Yoshida Y, Uchida K, et al：A Genetic Analysis for Patients with Pulmonary Arterial Hypertension. Molecular Mechanism of Congenital Heart Disease and Pulmonary Hypertension. Springer Singapore, 201-204, 2020
8)畔上達彦：ループス腎炎V型の一例. 腎臓病診療でおさえておきたい Case36. 医学書院, 157-165, 2019
9)徳村光昭：小児医療・小児保健の役割と特性. 新体系看護学全書, 小児看護学 2, 健康障害をもつ小児の看護. メヂカルフレンド社, 359-364, 2019
10)南里清一郎, 當仲香, 他：インフルエンザの出席停止基準・期間と学級閉鎖の判断はどのようにすべきですか？. インフルエンザ診療ガイド 2019-20. 日本医事新報社, 207-211, 2019
11)横山裕一：こうして落とす！女性の内臓脂肪. PHP 研究所, 2020

イ　論文

1)Asakura T, Nishimura T, et al：Sitafloxacin-containing regimen for the treatment of refractory Mycobacterium avium complex lung disease. Open Forum Infect Dis, 6(4)：ofz108, 2019
2)Azegami T, et al：Vaccine Development against the Renin-Angiotensin System for the Treatment of Hypertension. Int J Hypertens, 23(12)：doi：10.1155/2019/9218531, 2019
3) Hayashi K, Azegami T, et al：Association of glomerular DNA damage and DNA methylation with one-year eGFR decline in IgA nephropathy. Sci Rep, 10(1)：237, 2020
4)Higashikuse Y, Makino S, et al：Perturbation of the titin/MURF1 signaling complex is associated with hypertrophic cardiomyopathy in a fish model and in human patients. Dis Model Mech, 15;12(11). pii：dmm041103,2019
5) Hishikawa A, Azegami T, et al：Decreased KAT5 Expression Impairs DNA Repair and Induces Altered DNA Methylation in Kidney Podocytes. Cell Rep, 26(5)：1318-1332,2019

6)Inokuchi M, et al：National anthropometric reference values and growth curves for Japanese children: history and critical review. Ann Hum Biol, 46(4)：287-292, 2019
7)Ishizaki-Asami R, Uchida K, et al：Inositol 1,4,5-trisphosphate receptor 2 as a novel marker of vasculature to delineate processes of cardiopulmonary development. Dev Biol, 458：237-245, 2020
8)Kawabe H, Azegami T, Takeda A, Hirose H, et al：Features and preventive measures of hypertension in the young (Review). Hypertens Res, 42(7)：935-948, 2019
9)Kimizuka Y, Nishimura T, et al：Retrospective evaluation of natural course in mild cases of Mycobacterium avium complex pulmonary disease. PloS One, 14(4): e0216034. ,2019
10)Mittal N, Makino S, et al: Versican is crucial for the initiation of cardiovascular lumen development in medaka (Oryzias latipes). Scientific Reports, doi.org/10.1038/s41598-019-45851-3,2019
11)Murai-Takeda A, Azegami T, Hirose H, Inokuchi M,Tokumura M, Mori M, et al：Low birth weight is associated with decline in renal function in Japanese male and female adolescents. Clinical and Experimental Nephrology, 23(12)：1364-1372, 2019
12)Shima T, Nishimura T, et al：Infiltration of tumor-associated macrophages is involved in tumor programmed death-ligand 1 expression in early lung adenocarcinoma. Cancer Sci, 111(2)：727-738, 2020
13)Uwamino Y, Nishimura T, Mori M, et al：Low serum estradiol levels are related to Mycobacterium avium complex lung disease: a cross-sectional study. BMC Infect Dis, 19(1): 1055, 2019
14)Yamaji Y, Yasui Y, et al：Simultaneous Administration of Recombinant Measles Viruses Expressing Respiratory Syncytial Virus Fusion (F) and Nucleo (N) Proteins Induced Humoral and Cellular Immune Responses in Cotton Rats. Vaccines, 7(1): E27, 2019
15)Yoshida Y, Tokumura M, et al：Chronotropic incompetence to exercise in anorexia nervosa patients during the body-weight recovery phase as an index of insufficient treatment. Heart and Vessels, 34：711-715, 2019
16)Yotsukura E, Inokuchi M, Tokumura M, et al：Current prevalence of myopia and association of myopia with environmental factors among schoolchildren in Japan. JAMA Ophthalmology, 137(11), 1233-1239, 2019
17)畔上達彦：血圧変動性の意義. 慶應保健研究, 37(1)：105-110, 2019
18)井ノ口美香子：学校教育（保健分野）における女性の健康支援に関連する教育内容の現状と課題. 平成30年度　厚生労働科学研究補助金　女性の健康の包括的支援政策研究事業 保健・医療・教育機関・産業等における女性の健康支援のための研究　平成30年度　総括・分担研究報告書, 72-83, 2019
19)井ノ口美香子：栄養障害とその対応　学童期・思春期(思春期のやせを含む). 小児科臨床, 72(4): 438-441, 2019
20)井ノ口美香子：やせの原因となる食習慣. 小児内科, 51(9): 1298-1301, 2019
21)井ノ口美香子：やせに関わる諸問題　わが国における現状と近年の話題. 慶應保健研究, 37(1): 99-103, 2019
22)大山晶子, 横山裕一, 高橋綾, 中村清美, 澁谷麻由美, 松本可愛, 佐藤幸美子, 福富千尋, 西村知泰, 康井洋介, 牧野伸司, 広瀬寛, 森正明：本大学医療系学部新入生の麻疹抗体保有率；麻疹流行, ワクチン定期接種施策の変遷との関係. CAMPUS HEALTH, 57(1)：195-197,2020
23)木村奈々, 徳村光昭, 井ノ口美香子, 内田敬子, 康井洋介, 有馬ふじ代, 他：小学校における学校感染症対策の実際. 慶應保健研究, 37(1): 65-69, 2019
24)後藤伸子：糖代謝における睡眠の重要性. 慶應保健研究, 37(1)：23-28, 2019
25)清奈帆美, 和井内由充子, 牧野伸司, 小原慶子, 當仲香, 森正明：脳性ナトリウム利尿ペプチド（BNP）を上昇させる要因の検討―健康診断結果の分析より―. 慶應保健研究, 37(1)：59-63, 2019
26)當仲香, 山﨑花梨, 和井内由充子, 牧野伸司, 森正明：当大学における学生定期健康診断での循環器疾患スクリーニングの評価. 慶應保健研究, 37(1)：53-58, 2019
27)徳村光昭：小児科は小児保健へ. 慶應保健研究, 37(1)：7-13, 2019
28)中村清美, 西村知泰, 高橋綾, 大山晶子, 佐藤幸美子, 福富千尋, 齋藤圭美, 外山千鈴, 弦巻美保, 横山裕一, 森正明：看護学生における結核感染対策. 慶應保健研究, 37(1)：115-119, 2019
29)西村知泰, 森正明：外国人留学生の結核感染調査(第二報). 慶應保健研究, 37(1)：35-39, 2019

30)西村由貴，外山千鈴：慶應義塾におけるストレスチェック　2018年度の結果概要と今後の課題．慶應保健研究，37(1)：29-34，2019
31)原光彦，井ノ口美香子，他：幼児肥満ガイド　要旨．日本小児科学会雑誌，123(7)：1101-1107，2019
32)伴英子，康井洋介，徳村光昭，井ノ口美香子，内田敬子，有馬ふじ代，他：小学生，中学生，高校生における水痘ワクチン接種と水痘抗体保有状況．慶應保健研究，37(1)：47-51，2019
33)福富千尋，佐藤幸美子，西村知泰，井ノ口美香子，広瀬寛，内田敬子，康井洋介，有馬ふじ代，後藤伸子，伴英子，徳村光昭，森正明，他：中高一貫校における2018年度の熱中症発生状況とその対応．慶應保健研究，37(1)：79-84，2019
34)松本可愛，横山裕一：医療系学部学生における麻疹，流行性耳下腺炎，風疹，水痘対策－現状と課題，その解決策－．慶應保健研究，37(1)：71-77，2019
35)水野克己，井ノ口美香子，他：早産・極低出生体重児の経腸栄養に関する提言．日本小児科学会雑誌，123 (7)：1108-1111，2019
36)森正明，神吉正子，齋藤圭美，西村知泰：学生健康診断における喘息管理マニュアルの活用．慶應保健研究，37(1)：85-90，2019
37)康井洋介，他：私立小中学校における結核検診成績の10年間の変遷(2007年度-2016年度)．日本小児呼吸器学会雑誌，30(2)：151-156，2020
38)康井洋介，徳村光昭，井ノ口美香子，内田敬子，有馬ふじ代，山岸あや，木村奈々，久根木康子，佐藤幸美子，高山昌子，福富千尋，他：小中学校における結核検診の現状と課題．慶應保健研究，37(1)：41-46，2019
39)山﨑花梨，當仲香，和井内由充子，牧野伸司，森正明：大学生の心臓検診における要管理者の抽出方法と評価．CAMPUS HEALTH，57(1)：60-64，2020
40)山田茉未子，徳村光昭，井ノ口美香子，内田敬子，康井洋介，有馬ふじ代，三井俊賢，他：精巣捻転症への学校における取り組み　医療機関(泌尿器科)と連携した早期受診システムの構築．慶應保健研究，37(1)：111-114，2019
41)横山裕一，齋藤圭美，澁谷麻由美，清奈帆美，高橋綾，山岸あや，外山千鈴，森正明：ヘリコバクタ・ピロリ菌の感染における水系の役割－日本における上下水道の普及とHP菌感染率の低下－．慶應保健研究，37(1)：15-22，2019
42)横山裕一：キャンパスおよび病院の麻疹，風疹，流行性耳下腺炎，水痘対策 ― 4つのトピックスに基づく慶應大学における最近の体制の変更と将来の構想―．慶應保健研究，37(1)：91-97，2019

ウ　学会発表

1)有馬ふじ代，徳村光昭，内田敬子，井ノ口美香子，康井洋介，長島由佳：男子大学生の血圧高値と関連する小学校入学以降の学校健診データの解析　第66回日本学校保健学会学術大会 2019
2)Ishizaki R, Uchida K, et al.：The 1, 4, 5-Trisphosphate Receptor 2 as a Novel Marker of Vasculature for Delineating the Cardiopulmonary Development 26th Weinstein Cardiovascular Development Conference　2019
3)井ノ口美香子，他：日本人乳幼児(0-6 歳)における腹囲・腹囲身長比基準値の作成　第53回日本小児内分泌学会　2019
4)井ノ口美香子，他：日本人乳幼児(0-6 歳)における腹囲・腹囲身長比基準値の作成　第40回日本肥満学会・第37回日本肥満症療学会　2019
5)井ノ口美香子，他：遺伝カウンセリングロールプレイ 骨形成不全症　第24回小児内分泌専門セミナー　2019
6)井ノ口美香子：性とは何か　からだの性・こころの性：内分泌学的側面から　第35回小児保健セミナー　2019
7)上蓑義典，西村知泰，森正明，他：閉経後女性における血清エストラジオール低値と肺 Mycobacterium avium complex 感染症の関連性 第94回日本結核病学会総会　2019
8)大山晶子，横山裕一，高橋綾，中村清美，澁谷麻由美，松本可愛，佐藤幸美子，福富千尋，西村知泰，康井洋介，牧野伸司，広瀬寛，森正明：本大学医療系学部新入生の麻疹抗体保有率；麻疹流行，ワクチン定期接種施策の変遷との関係　第57回全国大学保健管理研究集会 2019
9)加藤則子，井ノ口美香子，他：肥満小児の身長発育に関する検討　第30回日本成長学会 2019
10)菊地徹洋，後藤伸子，他：脂肪組織Tリンパ球 Foxo ファミリーの活性化はエネルギー消費を抑制する　第62回日本糖尿病学会年次学術集会　2019
11)菊地理恵子，後藤伸子，他：肥満糖尿病患者における bariatric surgery の腸内細菌叢と代謝指標への影響　第92回日本内分泌学会学術集会　2019
12)菊地理恵子，武田彩乃，他：シンチグラフィー陰性を呈したサブクリニカルクッシング症候群の一例　第92回日本内分泌学会学術総会　2019

13)喜田素子，後藤伸子，他：肺高血圧を合併し心不全をきたした高度肥満症の一例　第40日本肥満学会・第37回日本肥満症治療学会学術集会　2019
14)上妻嵩英，武田彩乃，他：超高齢で副腎摘除術を行った褐色細胞腫の２例　第92回日本内分泌学会学術総会　2019
15)上妻嵩英，武田彩乃，他：増大する副腎嚢胞に対して副腎部分切除術を行った１例　第29回臨床内分泌 Update　2019
16)後藤伸子，他：食事療法による減量目標の設定に苦慮した肥満症の一例　第19回日本抗加齢学会学術集会　2019
17)後藤伸子，他：肥満症治療における「食べたい」を考える　第20回日本内分泌学会関東甲信越地方会　2019
18)後藤伸子，他：GLP-1 受容体作動薬により過食の軽減が認められた２型糖尿病合併高度肥満症の一例　第40日本肥満学会・第37回日本肥満症治療学会学術集会　2019
19)志満敏行，西村知泰，他：早期肺腺癌における PD-L1 発現は腫瘍間質マクロファージの浸潤と相関する　第 108 回日本病理学会総会 2019
20)清水真美子，後藤伸子，他：社会環境の変化により，嗜好が変化した肥満症の一例　第40日本肥満学会・第37回日本肥満症治療学会学術集会　2019
21)清水真美子，後藤伸子，他：食事療法に関して主治医との情報共有が重要であった肥満２型糖尿病の一例　第７回日本糖尿病協会療養指導学術集会　2019
22)関洋介，後藤伸子，他：腸内細菌と外科治療　日本人高度肥満症患者に対する外科治療が腸内細菌に与える影響　第74回日本消化器外科学会総会　2019
23)武田彩乃，畔上達彦，森正明，他：Developmental Origins of Health and Diseases (DOHaD)と青年期男女における生活習慣病発症の検討　第 19 回抗加齢医学会総会　2019
24)武田彩乃，畔上達彦，他：青年期の血圧に対する出生時体重が及ぼす影響　第８回臨床高血圧フォーラム　2019
25)曽根田瞬，井ノ口美香子，他：思春期開始年齢別にみた健常男子の前思春期から思春期における骨年齢の経時的変化　第30回日本成長学会　2019
26)田中敏章，井ノ口美香子，他：健常男子における思春期の成長率の検討　思春期年齢群別のピーク成長率と暦年齢，骨年齢との関係　第 30 回日本成長学会　2019
27)當仲香：シンポジウム１　有効な学生健診の実現に向けて　学生健診システム構築と投資対効果　第57回全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会　2019
28)徳村光昭，井ノ口美香子，内田敬子，康井洋介，有馬ふじ代，長島由佳：小学生，中学生，高校生における川崎病既往者増加の実態　第 66 回日本学校保健学会学術大会　2019
29)中山哲夫，康井洋介，他：成人におけるインフルエンザワクチン接種後のサイトカイン産生能　第 23 回日本ワクチン学会学術集会 2019
30)長島由佳，他：ACAN 変異を同定した骨年齢促進を認めない家族性低身長症の 1 例　第 53 回日本小児内分泌学会学術集会　2019
31)西村知泰，森正明，和井内由充子，広瀬寛，牧野伸司，横山裕一，武田彩乃，畔上達彦，後藤伸子，他：外国人留学生を対象とした結核感染調査　第 116 回日本内科学会　2019
32)乃村元子，武田彩乃，他：原発性アルドステロン症の副腎部分切除術選択における区域別副腎静脈サンプリングの有用性　第８回臨床高血圧フォーラム　2019
33)Nomura M, Murai-Takeda A, et al:Comparison of the efficacy of laparoscopic partial adrenalectomy and total adrenalectomy in the surgical treatment of primary aldosteronism -emerging usefulness of segmental adrenal venous sampling The 44th International aldosterone conference　2019
34)伴英子，康井洋介，徳村光昭，井ノ口美香子，内田敬子，有馬ふじ代，長島由佳：小学生から高校生における 2018～2019 シーズンの抗インフルエンザ薬使用状況　第51回日本小児感染症学会総会・学術集会　2019
35)菱川彰人，畔上達彦，他：腎ポドサイトにおける KAT5 発現低下は DNA 修復不全および DNA メチル化変化を惹起する　第42回日本高血圧学会総会　2019
36)菱川彰人，畔上達彦，他：高血圧，糖尿病患者の尿中脱落細胞における DNA 修復因子 KAT5 および DNA メチル化修飾因子の解析　第42回日本高血圧学会総会　2019
37)菱川彰人，畔上達彦，他：糖尿病患者尿中脱落細胞における DNA 修復因子 KAT5/podocin の解析　第 62 回日本腎臓学会学術総会　2019
38)菱川彰人，畔上達彦，他：DNA 修復因子 KAT5 を介したエピゲノム調整機構はポドサイトの形質維持に必須であり，糖尿病性腎症の新規治療標的になりうる　第92回日本内分泌学会学術総会　2019

39)広瀬寛，後藤伸子，森正明：血清アディポネクチン濃度低値は5年後の耐糖能悪化と関連する－職域健診での検討－　第92回日本内分泌学会学術集会　2019
40)広瀬寛，後藤伸子，森正明：教職員健診における血清中の高分子量型アディポネクチン濃度測定の意義　第19回日本抗加齢医学会　2019
41)広瀬寛，畔上達彦，武田彩乃，森正明，他：人間ドックにおける内臓脂肪・皮下脂肪面積，インスリン抵抗性指数や生活習慣などと血圧状態との関連　第42回日本高血圧学会　2019
42)広瀬寛，後藤伸子，森正明：血清の高分子量型アディポネクチン濃度低値は5年後の耐糖能悪化と関連する　第40回日本肥満学会・第37回日本肥満症治療学会学術集会　2019
43)福富千尋，西村知泰，佐藤幸美子，井ノ口美香子，内田敬子，後藤伸子，徳村光昭，森正明：中高一貫校における熱中症発生リスクの解明と予防方法について　第66回日本学校保健学会学術大会　2019
44)本田由佳，井ノ口美香子，當仲香，徳村光昭，他：大学保健管理センターにおける女子大学生の健康支援の実態に関する調査　第57回全国大学保健管理研究集会　2019
45)森正明：慶應義塾大学における結核検診とIGRAの運用方法　第57回全国大学保健管理研究集会　2019
46)康井洋介，徳村光昭，井ノ口美香子，内田敬子，有馬ふじ代，長島由佳，他：小学生，中学生における風しんワクチン2期接種導入後の風疹抗体価について　第51回日本小児感染症学会総会・学術集会　2019
47)康井洋介，徳村光昭，井ノ口美香子，内田敬子，有馬ふじ代，長島由佳，他：小学生，中学生における風しんワクチン2期接種導入後の風疹抗体価について　第23回日本ワクチン学会学術集会　2019
48)山﨑花梨，當仲香，和井内由充子，牧野伸司，森正明：大学生の心臓検診における要管理者の抽出方法と評価　第57回全国大学保健管理研究集会　2019
49)吉田祐，徳村光昭，他：Fallot四徴症心内修復術後患者に対する心肺運動負荷試験：心臓MRI所見との関連　第55回日本小児循環器学会学術集会　2019
50)Yotsukura E, Inokuchi M, Tokumura M, et al：Myopia crisis among school children in Tokyo The 17th International Myopia Conference 2019
51)四倉絵里沙，井ノ口美香子，徳村光昭，他：東京都内の1中学校における1年間の屈折値変化量と眼軸長変化量　第73回日本臨床眼科学会　2019

編集後記

2019 年 12 月に中国の湖北省武漢市において確認された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は，またたく間に世界各国・地域に広まり，日本政府は COVID-19 を強制入院や就業制限を可能とする「指定感染症」に指定しました。

感染拡大防止のために義塾では，2019 年度の大学(院)・一貫教育校の学位授与式・卒業式すべての中止や延期の決定を余儀なくされ，保健管理センターでは通常の業務に加え，COVID-19 に関する相談や問合せの受付，発熱などの有症状者を中心とした対象者の健康観察・管理を始めました。その詳細は本誌「Ⅱ 資料編 第 3. 感染症対策」に「新型コロナウイルス感染症関連対応および事後措置」の項目を加え，記しています。

本誌編集も政府より「緊急事態宣言」が発出され，信濃町地区を除く学内施設が閉鎖となり，ほぼすべての職員が在宅勤務を強いられた様々な制限のある中でその多くが行われてきましたが，ここに無事，上梓の運びとなりました。

本誌の編集にあたりご尽力いただきました編集委員・スタッフおよび関係者の皆様の労をねぎらい，心より感謝申し上げます。

慶應義塾大学保健管理センター年報編集委員会

今村江里子

年報編集委員会

編集委員長	徳　村　光　昭	
編集委員主幹	佐　藤　幸美子	髙　橋　　綾
	當　仲　　香	今　村　江里子
編集委員	森　　正　明	横　山　裕　一
	井ノ口　美香子	西　村　知　泰
	武　田　彩　乃	畔　上　達　彦
	今　野　恵　子	山　本　聡　子
	木　村　奈　々	松　本　可　愛
	室　屋　恵　子	武　藤　志　保
	弦　巻　美　保	刈　田　未　来

（順不同）

慶應義塾大学保健管理センター年報　2019

2020年９月30日発行　〔非 売 品〕

発　行　人　森　　正 明

慶應義塾大学保健管理センター
〔〒223-8521〕
横浜市港北区日吉4丁目1－1
電話045-566-1055

印刷・製本　（有）梅 沢 印 刷 所